

授業作り	重 点	○児童の主体的な活動、学びの実現に向けて、児童の意欲を高められるよう指導を行う。 ○一人ひとりの学習状況に合わせた学習を推進できるように授業改善に取り組む。
環境作り		○地域の企業等と連携して、体験的な教育活動を推進していく。 ○地域・保護者の意見を取り入れてともに作り上げることを目指し、運営委員会方式を取り入れ、地域に根差した環境づくりを進めていく。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがな・カタカナの読み書きができる。</li> <li>・大事なことをもらさずに聞くことができる。</li> <li>・10のまとまりを意識しながら足し算や引き算の計算をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせを日々行い、文字に興味をもたせる。</li> <li>・担任や友達のスピーチからクイズを出し、集中して聞く力をつける。</li> <li>・デジタルドリルを使って反復練習を行う。</li> </ul>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字や言葉を正しく書くこと、相手に伝わるように文章を書くことができる。</li> <li>・既習漢字、片仮名を文の中で正しく使うことができる。</li> <li>・繰り上がり、繰り下がりのある加法減法等の基礎的な力を身に付けることができる。</li> <li>・文章を読み、課題をつかんで立式ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の学習で振り返りを書く活動をしたり、宿題で定期的に小作文の課題を出したりして、書くことに慣れ親しませる。</li> <li>・プリントやデジタルドリルを利用して、反復練習を行い、基礎基本の計算の定着を図る。</li> <li>・文章題を解く際に、加法減法の決め手になる言葉を確認し、図などを参考にして、正しく立式することができるようにする。</li> </ul>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では「読むこと」の向上が必要である。</li> <li>・漢字の定着に個人差がある。</li> <li>・算数では、基礎基本の定着を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落相互の関係や登場人物の気持ちの変化について叙述をもとに捉えられるようにする。</li> <li>・既習漢字を正しく使うことができるようにする。</li> <li>・児童一人ひとりが既習事項を含め、基礎基本を十分に身に付けられるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読の反復練習</li> <li>・書く機会を増やす、学習の振り返り、日記の課題</li> <li>・デジタルドリルの活用</li> <li>・漢字ドリルと小テスト、復習プリントの活用</li> <li>・児童一人ひとりに合わせた課題の設定</li> </ul>

<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章内容を正確に読み取る力を高める。</li> <li>新出漢字や既習の漢字の定着が必要である。</li> <li>四則計算の基礎的な計算量が十分でない。</li> <li>定規やコンパスなどを正確に扱う力が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成を理解し、登場人物や作者の意図を読むことができるように指導する。</li> <li>漢字練習などの練習時間の確保</li> <li>四則計算を正しく行えるように指導し、基礎的な計算を繰り返す取り組む。</li> <li>図形の性質を理解し、正しく作図できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読による言葉への慣れ</li> <li>デジタルドリルの活用</li> <li>コンパス、分度器などの道具の使用の慣れ</li> <li>児童一人ひとりに合わせた課題の設定</li> </ul>
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語では、「書くこと」「読むこと」の力の向上が必要である。</li> <li>算数では、どの領域においても全体的な底上げが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域の力をバランスよく身に付ける。</li> <li>話の聞き方、話をする際の約束について徹底する。</li> <li>第4学年までの既習内容について定着させ、基礎基本的な学力を身に付ける。</li> <li>体験的な学習、探究的な学習の実践し、個々が課題をもち、探究的な学習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読むこと・書くことを日常的な活動として取り組む。</li> <li>1分スピーチ・質問するなど話す・聞く機会を日常の学習で多く設定する。</li> <li>算数は既習内容を復習し、習熟に応じた教材を準備する。</li> <li>探究学習については児童の願いや思いに沿った授業を計画・展開する。</li> <li>ICT・デジタルドリルの活用</li> </ul>
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を書く力に個人差が見られる。</li> <li>相手の気持ちを考えたり、論理的に説明したりする力が不足している。</li> <li>公式を用いて、課題解決できるが、理由を説明したり、考えを進んで伝えたりする力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該学年の漢字を読めるようにする。</li> <li>順序立てて説明する力を高める。</li> <li>相手の気持ちを考える場面を意図的に設定し、気持ちをとらえられるようにする。</li> <li>第5学年までの既習事項を確認する時間を設け、基礎基本的な学力を身に付ける。</li> <li>問題の意味や公式の活用方法を考えさせ、発言できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熟語と関連させたり、分解したりして意味の理解を図る。</li> <li>毎朝の1分スピーチや班活動で質問する等話す・聞く機会を日常の学習で多く設定する。</li> <li>順序だてて説明できるよう、スピーチをする時間を設ける。</li> <li>登場人物の心情など自分に置き換えて考えさせたり、想起させたりしながら読み取らせる。</li> <li>問題の意味を理解させ、考えを説明できる場を設定する。</li> </ul>

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】

【区教委提出用・様式2】

- ☒ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☒ 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☒ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☒ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- ☒ 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・全学年で、単元の終末にはデジタルドリルを活用するように周知していく。
- ・家庭学習の一つとして、デジタルドリルを課している。
- ・デジタルドリルの解き直しをノートに行うなどして、間違いを正して基礎・基本の定着が図れるようにする。